



2024年度 JLS の会

－卒業生が語る図書館の仕事－

2024年度のJLSの会では、学校図書館の司書教諭として活躍されている大作光子さんにご登壇いただきました。大作さんが勤務されている軽井沢風越学園の学校図書館は、先駆的な活動で全国に知られています。今のキャリアに至る学生時代からの道のりと現在の職場である軽井沢風越学園の学校図書館についてお話しいただきました。

(2024年10月19日：本学渋谷キャンパスにおいて開催)



短大入学と図書館学課程

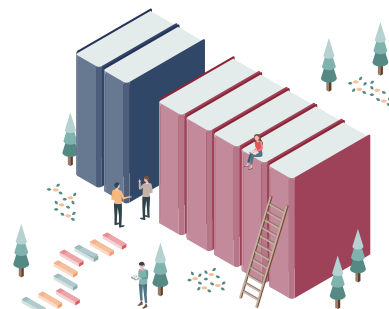
私は2003年に実践女子短期大学を卒業し、現在、軽井沢風越学園でライブラリアンとして働いています。短大を卒業してから20年の長い月日がたちました。本年度で短大が閉学するという事で、自分にとってすごく大切な機会をいただいたと思っています。今回の登壇にあたり、これまでのキャリアを振り返り、在校生の皆さんに向けて何か一つでもヒントを届けられたらと思います。

高校時代、立花隆『エコロジー的思考のすすめ』に出会い、生物や環境問題への関心が芽生えました。進路として生物関係の大学を志しましたが残念な

結果となり、挫折感を抱えながら自宅の近くにあった実践女子短期大学に入学しました。

短大では、本や図書館とは関係のない生活福祉学科人間関係コースを専攻していました。勉強は楽しかったのですが、成長実感がなくどこか物足りなさがありました。どこで聞いたのか記憶はありませんが、資格が取れるという話を聞いて、図書館学課程にチャレンジしてみることにしました。1年生の終わりに調布市立図書館の嘱託員に応募し、働きながら短大に通う生活を始めました。短大の図書館学課程では、石井紀子先生や長倉美恵子先生の教えを受け、技術だけでなく、図書館員たるものというライブラリアンシップを学んだと思います。図書館学課程の授業を通じて図書館の世界に魅了されました。短大卒業後のキャリアについて悩み、マスメディア社会論の大倉恭輔先生に研究室で相談したことをよく覚えています。

今から振り返ると、短大はいろいろな先生方と出会い、熱意を持って図書館と向き合えた時間だったと思います。



学校図書館研究の道へ

短大卒業後は東洋大学文学部第2部イブニングコースに編入し、中学校社会科の教員免許の取得を目指しました。数ある館種の中でも子どもたちが長くいる学校図書館に関わりたいと考え、そのために教員免許を取ろうと思ったのです。大学卒業後の進路はアメリカの大学院に行くべきか、日本でも学べるのか、日本の学校教員になるのがいいのかすごく悩みましたが、そのときの能力と経済状況を考え、筑波大学大学院の図書館情報メディア研究科に進学しました。

大学院の研究では、学校図書館の諸機能のうち学習、情報センターについて取り上げました。研究のために、日本全国の学校図書館にインタビューへ行きました。お金がないので夜行バスで行き、あそこに行くならこの夜行バスがいいと分かるぐらい、北海道から四国まで何十カ所もの学校図書館へ行きました。研究を進めるうちに、「学校図書館を研究すること」と「学校図書館を現場でつくること」は矛盾せず、両方を追求できると考えるようになりました。実は、実践女子大学でも、2013年から2015年まで、司書教諭科目の授業を担当させてもらったことがあります。短大時代の授業資料を見てこのようなことが大事だと思いながら、授業を作っていました。

大学院時代に、教育実習に行き、その後司書教諭資格も取得しました。大学院修了後は博士課程に進学し研究者の道も考えましたが、「司書教諭として子どもたちと直接関わりたい」という思いが勝りました。最初に勤めた明星学園では、総合探究科とい

う新設科目の立ち上げにも関わり、教員としてゼロから授業をつくりあげる経験を積みました。

軽井沢風越学園での実践

2019年度からは、現在の職場である軽井沢風越学園の開校準備に参加しました。準備では、図書館のレイアウトから書架の奥行き・高さといった設計に携わらせてもらいました。

軽井沢風越学園は幼稚園から中学生まで約300人が学ぶ私立の混在校です。探究を土台にしたカリキュラムを中心にしており、教科のほかに週10時間のプロジェクト学習（テーマプロジェクト6時間＋マイプロジェクト4時間）があります。プロジェクトと聞くと、最初は「ゴールに向かって計画する」ものと思うかもしれませんが。でも理事長は「投げてもなければどこに着地するか分からない、その不確かさを面白がろう」と言っています。準備はするけれど、進む方向は子どもが決める。だからテーマプロジェクトとマイプロジェクト、両方を用意しています。マイプロは“なんでもあり”の時間。釣り竿を自作して川へ行く「釣りプロジェクト」、ギター製作、烏骨鶏小屋づくり……成果よりも試行錯誤の過程に寄り添います。時には役所とのやり取りといった社会とつながる学びが大事だと思っています。

校舎には“図書室”という場所はありません。空間は遊環構造で突き当たりがなく、1・2階を行き来できる設計になっています。本棚が子どもの活動のそばに点在し、子どもが「ちょっと手に取る」が自然に起こる配置になっています。書架は活動に合わせて4つのエリアに分けています。それぞれ読み物エリ





ア、絵本遊びエリア、探究エリアをスロープ沿いに配置しており、ラボ(理科・技術・音楽室など)の前は創作エリアで、子どもの活動場所に本がある状態をつくっています。参考図書も別置せず、子ども自身がテーマの棚から選べるように混配しています。私はカウンターに張り付かず、動き回り授業を見に行きます。

蔵書は開校時2万冊ほど、今は3万5千冊超です。分類別の比率より、今いる子どもたちが学べる資料が揃っているかを重視しています。入門書から専門書まで、テーマごとに抜けをチェックしながら選書しています。色と形を学ぶテーマプロジェクトでは、科学・草木染・動物の色覚……と子どもの関心の広がりをもさまざまな角度から想定して選書しました。

司書は私を含め2名体制です。保護者にも蔵書を貸し出し、会話のきっかけにしています。月1回の「本の森カフェ」で保護者と本を介してつながる場も開いています。「もはや書を司るだけじゃなく、本との出会いを作り出す人だ」と若い先生に言われた

こともあります。まさに本と子どもを“つなぐ”のが、今の私の図書館員の仕事だと思っています。

向かい続けるということ

私のこの20年は、決して順調だったとは言えません。奨学金を返済しながら働き、迷い悩みながら進路を決めてきました。しかし、実践女子短大で出会った先生方や仲間たちとの学びが、今の自分の基礎となっています。

軽井沢風越学園は「つくること」を大切にしている学校です。私自身もまた、子どもたちとともに日々学び、次の未来をつくろうとしています。

在校生の皆さんへ、ぜひ伝えたいことがあります。それは「向かい続けること」。自分の興味や問いに真摯に向き合い続ければ、必ずどこかで誰かが応援してくれます。本や図書館、子どもたちとの出会いを通して、私もまだ道の途中にいます。ぜひ、皆さんも自分の道を、自分らしく歩んでください。

(構成：橋詰秋子)

図書館学課程 授業紹介

児童図書館サービス論 b

本学には、児童サービス関係の科目が2科目あります。前期の「児童図書館サービス論 a」は、絵本、物語、ノンフィクション、図鑑などについて学ぶ資料論、後期の「児童図書館サービス論 b」は、それら

の資料と子どもをつなぐ各種サービスについての授業です。

後期の授業では、講義のほかに、絵本の読みきかせ、子ども向け百科事典『ポ

プラディア』を用いた情報サービス、紙とはさみを使っての科学あそびの演習も行います。中でも絵本の読みきかせは、読みきかせ用ブックリストの中から自分が読みたい本を選ぶことから始まり、事前の全体練習、自宅等での自主練習、そしてグループワーク形式での発表へと至る授業のメインイベントです。今年の授業においても、最初は絵本の持ち方もおぼつかなかった学生たちが、練習の成果を発揮し、自信をもって読みきかせを行う姿が見られました。

(文責：須賀千絵)



情報資源組織論 b

情報資源組織論 b は、分類法や件名法といった「主題による資料組織化の方法」を学ぶ科目です。この科目の中で、書架に本を並べるために使われる分類法の学習に、図書館の現場を意識したグループ課題を取り入れています。

具体的には、履修生が自分で持参した本に『日本十進分類法』を使って分類記号を付与します。そして、図書館の書架に行き、自分の付与した分類記号でその本が書架上の適切な位置に並ぶかどうかを検証します。この作業を通して、図書館で行われる分類作業の意義や目的を実感することができます。

また、グループで作業するため、同じ本でもメンバーによって異なる分類記号が付与される場合があります。人による違いについて意見交換することも学びの一つです。これにより、分類作業の奥深さや面白さ、そしてチームで働く意義を体験できると考えています。

司書課程の科目はどうしても教室での座学中心になりがちです。この課題のような実務に近い経験をすることで、将来の仕事につながる学びを得てほしいと願っています。

(文責：橋詰秋子)



合格体験記 (千葉県成田市・司書)

2025年3月に人間社会学部を卒業されたU・Iさんは、千葉県成田市の司書職の採用試験に合格し、現在、市立図書館に司書として勤務されています。公務員試験合格までの体験をご寄稿いただきました。

私が司書を志望した契機は、幼少期から市立図書館に通い、図書館の存在が常に成長の傍らにあったことです。私は小学生の頃から司書になりたいと思っていましたが、初めは本が好きという単純な理由でした。人びとの生活背景が多様化するなかで、図書館が多くの人々の居場所の一つになればと思うようになりました。さらに、就職活動の準備を進めるなかで、図書館の、生涯学習機能の充実により市民活動を支援したいという目標もできました。

就職活動では、司書職と一般行政職を併願し、複数の自治体を受験しました。現在は、千葉県の成田市立図書館に勤めています。レファレンスカウンターに入り利用者の方と接する時間が多く、他には他市町村との相互貸借業務等を担当しています。

具体的な試験対策は、大学3年生の春休みから始めました。私は予備校等に通わず、準備の開始もかなり遅かったため、十分に勉強したとは言えませんが、そのなかで実施した対策をお伝えいたします。

まず、筆記試験ですが、専門試験は『司書もん』¹⁾を使っていました。問題文の下に解答を写し、読み物のようにして活用しました。また、解答・解説中のキーワードにマーカーを引き、法律、条文、図書館関係団体等は教科書やインターネットで、原文や団体ホームページを確認するようにしていました。時間があるときは写した解答を隠して紙に解き、隙間時間には問題と解答を繰り返し読むだけでも勉強になります。神奈川県や東京都の記述式試験では、『司書もん』に出てくるキーワードを押さえ、論理的に記述できれば通りやすい印象を持ちました。

教養試験は、苦手分野に絞り、数的処理と文章理解・資料解釈の問題集に取り組みました。これらは出題数の多い分野でもあるため、問題傾向に慣れ短時間で解く練習が必要でした。社会科学、人文科学、

自然科学といった暗記科目は、要点がまとめられている参考書を使い、通学時間に勉強しました。行政職でも教養試験は実施されますが、SPIやSCOA、CABなど形式が多様化しています。私は、司書職と併せて対策できるよう、一般的な公務員試験と出題範囲・方法が類似していると感じた、SCOAを採用している自治体を優先して、行政職を受験しました。

次に、面接試験ですが、対策はほぼできず、先生方に積極的に相談し面接練習をみていただくべきだったと後悔しています。私は、大学図書館で面接対策の参考書を借り、掲載されている質問を参考に、自分のエントリーシートに突っ込みを入れるイメージで想定質問と回答を考えました。面接を終えた後は必ず、実際に聞かれた内容に関して、自治体のホームページを調べ直して考えを深掘りし、次に向けた回答を準備していました。面接を重ねるごとに考えが深まり、不意の質問にも回答しやすくなったように思います。その点においても、行政職を複数受験したことは力になりました。行政職は概ね4月に試験が始まり、司書職に先駆けて面接を経験できます。行政職の面接を通し、「市町村の一部としての図書館」を意識することもできました。面接本番では、うまく伝えられない、想定していない質問に戸惑う場面が何度もありました。特に、都道府県は、一次の筆記試験が通ると、面接は二次試験一度のみの場合も多く、限られた時間で伝えるには練習が必須だと痛感しました。また、市町村と都道府県では図書館の機能も異なるため、その役割についても理解が必要です。図書館学課程の先生方などに相談し、客観的にご指導いただくことをお勧めいたします。

最後に、ぜひ図書館学の勉強以外に、ご自身の専

門分野や趣味などにも注力していただくとよいかもしれません。図書館に勤めて間もないですが、多様な利用者の方と関わり、受けるレファレンスも多岐にわたります。学生のうちに様々な事柄に触れ、自分の好きなことは深め、強みにしてほしいです。司書として勤めるうえでは、どのような経験も役に立つと思っています。試験の合格が目的になってしまうと勉強は苦しいかもしれませんが、あくまで通

過点と考え、司書になった先を見据えると、楽しい学びになるように思います。司書の採用数は少なく、周りの就職先が決まっていくなかで試験勉強も続きます。そのうえで司書を目指す選択は容易ではないかもしれませんが、私も理想の司書を目指していく仲間として、心より応援しております。

注1) 図書館職員採用試験対策問題集。後藤敏行『司書もん』第2版、図書館情報メディア研究会、2020、3巻。

前号の訂正について(お詫び)

2025年3月に発行した『JLS ニュースレター』No.16において、私共(図書館学課程スタッフ)による編集ミスがありました。2023年度 JLS の会特別シンポジウムの中で、日野市立図書館前館長の清水ゆかり様の事例報告「日野市立図書館の地域・行政資料サービス」の掲載頁において、誤字脱字などのミスが複数箇所見つかりました。清水様をはじめ、日野市立図書館の関係者の方々に多大なるご迷惑をおかけしたことを心より深くお詫び申し上げます。本号において、以下訂正箇所を記します。なお、PDF は修正版を制作し、本学公式サイトでは修正版 PDF を公開していることを申し添えます。

<訂正箇所>

- | | |
|---|----------------------|
| ・2頁右段 … 下から9行目 … 業務報告 | ⇒ 『業務報告』 |
| ・2頁右段 … 下から1行目 … 2018年策定の基本計画 | ⇒ 2023年策定の第4次図書館基本計画 |
| ・3頁左段 … 上から4行目 … 市民と図書館が共同で | ⇒ 市民と図書館の協働で |
| ・3頁左段 … 上から6行目 … 町の魅力 | ⇒ まちの魅力 |
| ・3頁左段 … 上から8行目 … 平成18年に誕生 | ⇒ 2006年に誕生 |
| ・3頁左段 … 下から11行目 … 役所内で調査する | ⇒ 各課に調査依頼 |
| ・3頁左段 … 下から8行目 … 市の職員の尽力も活用 | ⇒ 市の職員の人脈も活用 |
| ・3頁右段 … 上から3行目 … 「日野市立図書館地域行政資料」 | ⇒ 「日野市立図書館地域・行政資料」 |
| ・3頁右段 … 上から9行目 … 役所に配布し | ⇒ 全部の課に配布し |
| ・3頁右段 … 上から16行目 … 市政を | ⇒ 市の取り組みを |
| ・3頁右段 … 上から21行目 … 副本の数 | ⇒ 複本の数 |
| ・3頁右段 … 上から22行目 … 「現在も」の前に「令和4年度には歴史的文書のデジタル化に着手しました。」の一文を挿入。 | |
| ・3頁右段 … 上から23行目 … 次にデジタル化した資料 | ⇒ デジタル化した公文書 |
| ・3頁右段 … 上から27行目 … 市政施行 | ⇒ 市制施行 |
| ・3頁右段 … 上から27行目 … 岩手県紫波町 | ⇒ 姉妹都市の岩手県紫波町 |
| ・3頁右段 … 下から11行目 … 町内の多くの人 | ⇒ 庁内の多くの人 |
| ・3頁右段 … 下から1行目 … に取り組んでいきます。 | ⇒ を進めてまいります。 |

INFORMATION

【卒業生】

愛甲晴美・若森慶隆「荻野家所蔵『伝平尾鈿（下田歌子）自筆万葉集歌かるた』に関する考察（Ⅰ）—かるた札の翻刻及びかるたから見える下田の幼少期について—」『実践女子大学下田歌子記念女性総合研究所 年報』11, 2025, p. (21) 82 - (38) 65.

加藤靖子・愛甲晴美・高瀬真理子・宮木孝子「下田歌子関係書簡翻刻（2）三島通庸（下）」『実践國文學』(107) 2025, p. 67 - 93.

日比野小都「山元春挙《主基地方風俗歌屏風》の特徴について」『実践女子大学美術史學』39, 2025, p. 1 - 15.

【教員：非常勤・専任】

近藤牧子「生涯にわたる継続した学習保障と力量形成に関する国際的観点と日本の動向 —ユネスコ国際成人教育会議をめぐる国際的動向から—」『人間研究』61, 2025, p. 15 - 24.

白戸満喜子「和紙関連文献の探し方 —国立国会図書館のデジタルデータ利用方法—」『和紙文化研究』31, 2025, p. 70 - 76.

村上篤太郎「東京農業大学学術情報課程1982年～2022年における40年の歩み —教材としての顔—」『日本農学図書館協議会誌』(215), 2024, p. 21 - 23.

村上郷子「AIを前提とした大学図書館の現状と課題」『法政大学資格課程年報』14, 2025, p. 45 - 50.

村上郷子「メディア情報リテラシー教育のアクティブラーニングの評価とその課題（1）」『メディア情報リテラシー研究』5 (1), 2024, p. 121 - 127.

吉澤小百合「日本の学校図書館と学校図書館専門職における探究学習指導支援の現状と課題」『St. Paul's Librarian』39, 2024, p. 28 - 38.

須賀千絵「学校評価と学校図書館評価の課題」『学校図書館』(879), 2024, p. 16 - 18.

須賀千絵「ブレア・ブラウン政権下の英国公共図書館政策」『実践女子大学文学部紀要』67, 2025, p. 69 - 86.

松本直樹・江藤正己・須賀千絵・池谷のぞみ「公立図書館における健康医療分野の図書所蔵」『日本図書館情報学会誌』71 (3), 2025, p. 141 - 152.

共同研究グループPICNIC『図書館のマンガを研究する：図書館情報学サイエンスカフェ講演録』日本図書館協会, 2024, 73p. 橋詰秋子「アメリカの図書館はマンガをどのように排架・分類しているのか」

Noriko, Sugie; Akiko, Hashizume; Djoke, Dam; Mari, Agata. Are Japanese Manga Held in Dutch Libraries?: An Analysis of Collection Trends Using Library Metadata. *Journal of Library Metadata*, 25 (2), 2025, p. 69 - 97.

橋詰秋子「書誌コントロール：図書館における知の共有の仕組み」『慶應義塾大学DMC紀要』12 (1), 2025, p. 8 - 12.



JLSニュースレター No.17

2026年3月1日 Jissen Librarianship の会

編集・発行：実践女子大学図書館学課程／実践女子大学短期大学部図書館学課程
〒150-8538 東京都渋谷区東1-1-49 e-mail: lis@jissen.ac.jp